



山都町地域包括支援センター

地域包括支援センターケアマネジャー・保健師・事務職員

○高齢者の力になる

地域包括支援センター

矢部保健福祉センター千寿苑内に「山都町地域包括支援センター」があります。「地域包括支援センター」とは、介護保険法で設置が義務づけられている、高齢者の生活を総合的に支える機関です。支援センターでは、高齢者が、住み慣れた地域でその人らしい生活を送るためのサービスが受けられるよう活動しています。保健・介護・福祉という3分野の専門職が地域と連携し、高齢者の様々な相談に対応します。

病院や介護サービスの情報提供はもちろん、地域の専門家と連携をとりながら、総合的な支援を行ないます。

◎介護のことならお気軽に!

「どこに相談すればいいのだろう?」と迷ったときは包括支援センターにお尋ねください。

☆地域包括支援センターではこんな仕事をしています

自立して生活できるよう支援します

○要支援1・2と認定された人は、介護保険の介護予防サービスを利用できます。

○支援や介護が必要となるおそれの高い人や自立した生活をしている人などは、山都町が行う介護予防事業を利用できます。

みなさんの権利を守ります

○高齢者のみなさんが安心していきいきと暮らすために、みなさんの持つさまざまな権利を守ります。成年後見制度の紹介や、虐待を早期に発見したり、消費者被害などに対応します。

山都町地域包括支援センター



それぞれが専門分野の仕事を行うのではなく、お互いに連携をとりながら「チーム」として総合的にみなさんを支えます。

なんでもご相談ください

○高齢者のみなさんやその家族、近隣に暮らす人の介護に関する悩みや問題に対応します。介護に関する相談や心配ごと、悩み以外にも健康や福祉、医療や生活に関することなどなんでもご相談ください。

さまざまな方面からみなさんを支えます

○みなさんを支える地域のケアマネジャーの指導や支援のほか、高齢者のみなさんにとってより暮らしやすい地域にするため、さまざまな機関とのネットワーク作りに入れます。

☆ご相談・問い合わせ先
「地域包括支援センター」
 TEL 0967-172-14011
「山都町役場 健康福祉課 高齢者支援係」
 TEL 0967-172-11173

認知症サポーターを知っていますか?

初の独自開催

6月11日、町内の民間企業独自では初となる養成講座が開催されました。受講したのは(有)山中工業のみなさん。代表取締役である本田博俊さんに開催のきっかけを伺うと、「社員の家族にも高齢者が多いため、家族が認知症になったときに役立つと思い開催した。」と社員を思うやさしい言葉。

講座では、包括支援センターの職員から認知症の基礎的な知識を学び、その後劇にて対応方法を学びました。受講後「劇がリアルで勉強になった。家族で発症したときに対処できそう」と感想を頂きました。



認知症サポーターとは認知症の人とその家族の「応援者(サポーター)」のことです。

何か特別なことをするのではなく、「認知症サポーター養成講座」を受けて、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を暖かい目で見守る人のことです。例えば、友人や家族に認知症の知識を正しく伝える、認知症になった人や家族の気持ちを理解するなど、活動内容は人それぞれ、できる範囲で十分です。

現在、全国で「認知症サポーター100万人キャラバン」が展開中です。認知症サポーターを全国で100万人養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちをつくる運動が各地で広がっています。

山都町のサポーターは日本一

町では平成20年から、多くの方々に協力いただき、養成講座の講師役となるキャラバンメイトを養成しました。そして、いろんな機会を捉えて、講座を開催し、認知症サポーターを増やしてきました。平成23年3月末現在、山都町には2,849名の認知症サポーターがいます。

熊本県長寿社会局は、県内の認知症サポーターが、人口100人当たり5.80人で、都道府県別人口比で2年連続の全国1位になったと発表しました。県内の市町村別の第1位はなんと山都町(人口100人当たり15.84人!)。山都町は認知症サポーターにおいては日本一の町と言えます。

☆認知症サポーターの印 <オレンジリング>

サポーター養成講座を受講すると、サポーターの証オレンジリングが渡されます。



今後は、高齢者の方と接する機会が多い、郵便局、銀行、JA、商店の方々など、20代~60代の働き盛りの年代に向けた認知症サポーター養成講座を行い、オレンジリングを拡げていく予定です。

自治振興区		氏名	
御岳	真野 円理	自治振興区	下田 省三
御岳西部	松永 秀憲	浜町A	増田 誠治
白糸第一	坂本 憲義	清和中部	那須 誠武
菅	上田 靖	朝日	那須 房雄
白糸第三	伊藤 保次	小峰	飯星 房雄
下矢部東部	藤川 昭一	緑川・木原谷	奈須 美喜男
下矢部西部	津川 則光	馬見原	菊池 泉
中島西部	渡邊 武士	大野	町 英明
中島東部	藤永 達夫	菅尾	中村 秀治
島木	藤本 昭喜	花上	戸高 朝一
下名連石	荒木 秀一郎	二瀬本	山辺 いち子
御所	山下 安	橘	江藤 奨
浜町C	金井 一太	東竹原	田上 満則
浜町B	山本 義時	長谷	佐藤 長生
		上差尾	興梠 麻男

健康づくり推進員



朝日自治振興区・那須武さん

このほか、躍進賞として長谷自治振興区、白糸第一自治振興区が表彰されました。

「会議などで健診受診について話をするとき、自身の健康の事も話しています。菅尾地区は、地域のつながりが強く、健康意識も高いため、受診率向上につながっていると思います。」

○敢闘賞 菅尾自治振興区 中村 秀治さん
 受診率 68.6%

○優秀賞 橘自治振興区 江藤 奨さん
 受診率 70.3%

○最優秀賞 朝日自治振興区 那須 武さん
 受診率 73.6%

「振興区の会議や部会の活動報告の機会を利用し、健診の説明を行いました。振興区に推進員は一人しかいないので、各区長にも応援を頼み周知を徹底しました。また、清和支所の保健師にアドバイスを受けながら活動しています。今後の課題は、受診率の維持と未受診者対策です。他7人の区長の協力をいただきながら、さらに地域の健康意識を高めていきたいです。」

今回は、健康づくり推進員の活動について紹介します。平成20年度に始まった山都町健康づくり推進員制度。28の自治振興区から1人ずつ選出されています。主な活動として、特定健診の受診率向上への取り組み、各自治振興区での学習会など地域住民の健康づくりをサポートしています。

6月8日(水)に今年度第1回会議が矢部保健センター千寿苑にて開催されました。ここで、平成22年度に特定健診受診率が向上した優良自治振興区の5団体が表彰されました。

保健センターだより Vol.3